

大刀洗町住民協議会
第2次答申
「地域包括ケアについて」

大刀洗町住民協議会

大刀洗町長 安丸国勝 様

本年 2 月にスタートした住民協議会は、合計 6 回が終了した。今回のテーマからは委員を 20 名から 46 名に増員、分科会も 2 つから 3 つへと拡大されることとなった。人が多くなると発言がでにくくなるという懸念もあったが、実施してみるとそのようなこともなく、全員が積極的に参加していた。多くの町民がこのような取組に参加することは重要であると考えている。

今テーマの「地域包括ケア」は、国の制度が移行するというタイミングでもあり、何よりも仕組みを理解することに非常に苦労した。また、周りに介護保険サービスを利用している人が少ないこともあり、実態をつかむことにも時間を要した。

ただ、今テーマでの 3 回の協議会を行う過程で、実際に健康教室や介護予防教室を体験したり、サービスを利用している人の話を聞いたりする委員もおられ、回を経るごとに地域包括ケア、地域での高齢者支援などについて自分のこととして考えられるようになったと思われる。

無作為抽出から選定された住民が行政課題について議論し一定方向性を出すこの住民協議会の仕組みについて、全国紙でも取り上げられるほど注目されていると聞いている。大刀洗の名前が全国に伝わる意味ではとても良いことだと考えるが、この取組の一番の目的は、住民自らが町のことを考え町の課題を解決していくである。このことを常に念頭に置いていただき、協議会の内容の充実度と全国的な広がりが連動していくように心がけていただきたい。

今回とりまとめた方向性を推進するためには、我々住民も行動していく必要があるが、町としても取り組んでもらわなければならない。町長がリーダーシップを発揮して改善につなげていただきたい。

平成 26 年 11 月 29 日

大刀洗町住民協議会

第 1 分科会 分会長 弥 永 康 寛

第 2 分科会 分会長 飯 田 浩 一

第 3 分科会 分会長 井 上 宰 継

1. 住民協議会概要

昨年度条例により設置された住民協議会は、2月から5月にかけて1つ目のテーマ「ごみ行政」に関して3回にわたって議論し、7月には第一次答申を提出した。

7月から行われた第2弾においては、より多くの住民に行政に対して当事者意識を持ってもらうという本取組の目的を達成させるため、委員を増員し当初の20名から46名となった。そして、2つ目のテーマとして設定されたのは「地域包括ケア」。介護保険制度の変更に伴って、今後、介護予防事業などが保険サービスではなく地方自治体独自のサービスに変わることを踏まえ、現在どのようなサービスが行われていて、今後地域でできることは何があるのか、町が行うべきことはどのようなことか、などについて議論を行った。

まず7月12日の第1回目には、制度の全体像や大刀洗町が現在取り組んでいる内容について行政から説明を受け、その後3班に分かれて質疑応答。8月10日に行われた第2回では、各班で全体像をさらに理解を深めるための質疑や各自の経験などに就いて意見交換をした。

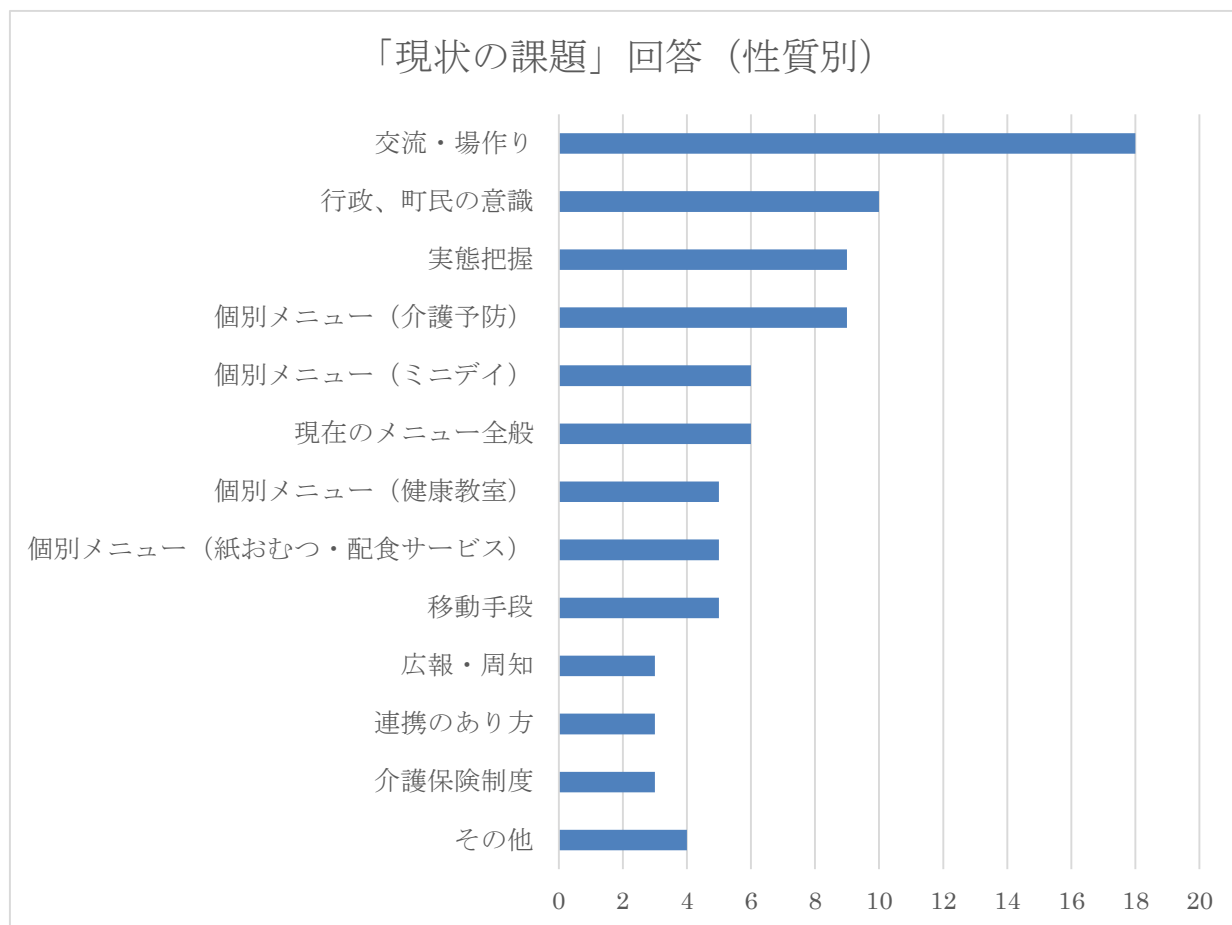
そして、第3回が行われる9月13日までに、各委員が実際に介護予防教室や健康教室を体験したり、この取組に参加している知人へのインタビューなどを行い、協議会の中ではその経験を語りながら議論を重ねた。

2. 各委員の考える「課題」の概要

今テーマにおける第2回協議会において各委員が「改善提案シート」に記載された、地域包括ケアについての現状の課題を整理すると、35人の委員からのべ86項目の課題が挙げられた。

それらを大まかに分類すると以下ようになった。

○「現状の課題」性質別とりまとめ（第２回協議会終了時点）



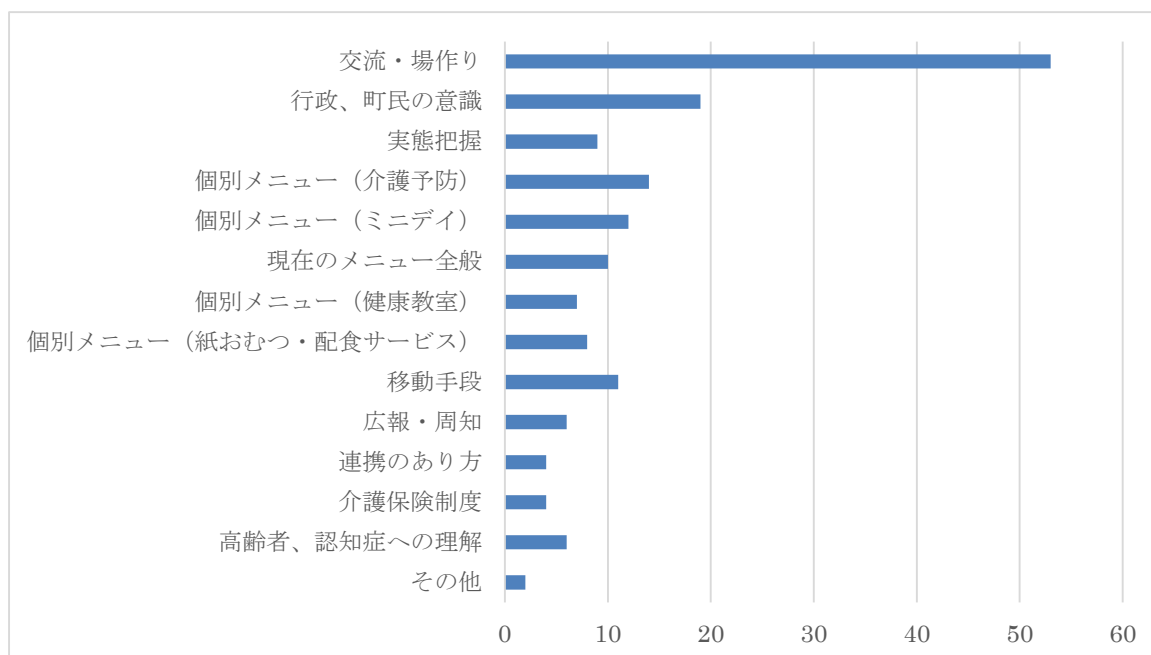
大きくは 13 項目に分類され、具体的な課題は 20 項目に分類された。

高齢者が家に閉じこもりにならないような、交流や場作りが必要という意見が圧倒的に多くなった。次に多かったのが、行政や町民の意識面であることも併せて考えると、身内に高齢者がいなければなかなか当事者意識を持つことができていない状況を変えていく必要があると考えた人が多かったと思われる。

その後、第 3 回協議会では、各課題についてさらに詰めた議論を行い、議論を踏まえて各委員が「意見提出シート」を記載した。

大分類は 1 項目追加され、具体的課題は 24 項目（4 項目増加）となった。各委員の意見内容を分類すると、以下のようになった。

○「意見提出シート」概要（第3回協議会終了後提出）



「交流・場作り」に関する意見が、第2回以上に多く提出された。第2回協議会終了後、どのように交流ができるか当事者と話してきた委員などもおり、さらに深く考えた結果の数字と考えられる。また、個別メニューに関する意見も前回に比べて大きく増加している。これも、各委員が実際に介護予防教室や健康教室に参加するなどの現場体験を行ってきた結果と言えよう。

3. 委員からの改善提案概要

（1）交流・場作り

課 題		独居老人対策、高齢者の生きがい作りが不十分。
改善提案	個人の取組み	・ 地元行事に積極的に参加する。交流の機会を作り、できるだけ多くの住民の参加を呼びかける。 ・ まず自分が元気になる。自分の仕事や趣味を見つける。近くでもいいので毎日外に出る。 ・ 朝のラジオ体操などで体を動かす。 ・ 近所に対する目配りと対話の気持ちを持つ。 ・ ボランティアとして協力する。 ・ どのような形でも良いので声をかける。

		・ 色々なことに興味を持つ。関わりを持つ。 ・ 近所の独居高齢者の特技を知る。
	地域の取組み	・ 農業地域の特性を活かした活動の場を創出（高齢者が集まって農産物の販売など）。 ・ 集まって体を動かせる場を作り、周囲に宣伝。 ・ 独居老人対策などについて、若い人たちに伝える。 ・ NPO 等で障害者、幼児、高齢者が一緒に過ごす取組みを行う。 ・ 野菜売りや珈琲など自然発生的な集いの場を作るための配慮。 ・ 民生委員等と連携した情報収集の徹底。 ・ 高齢者が参加する集落の行事を増やす。 ・ 集落内の対象者の把握。お互いの情報を提供する。
	行政の取組み	・ 農産物や自分で作った物の販売などのチャンネルを作り、それによって人と人を繋ぐ。 ・ JA、農業委員会、NPO 等への協力依頼。 ・ 独居高齢者への訪問頻度を上げる。 ・ 行事を広報紙などで紹介し楽しさを PR する。併せて、広報紙以外の PR 方法も検討する。 ・ NPO 等の団体に対しての財政支援。 ・ 大刀洗ブランドを作って参加してもらう。 ・ 趣味を披露する場を作る。 ・ 状況確認することを条件に空き家を低家賃で独居高齢者に貸し出すことの検討。

課 題		世代を超えたコミュニケーションの場や機会がない。
改善 提案	個人の取組み	・ 常に地域の高齢者と関わる。 ・ 参加する気持ちを持つ。 ・ 積極的に話しかける。出会った人への挨拶。 ・ 高齢者への声掛けなどを子どもに協力してもらう。 ・ コミュニケーションの取り方を考える。 ・ 色々な世代が利用する施設に出ていく。
	地域の取組み	・ 65 歳以上の独居世帯と若い家族だけの世帯がかかわれる環境づくり。 ・ 高齢者から子供へ昔の遊びや自分の特技等を伝授する場をつくる。逆に若い人が高齢者に教えるよ

		うな場の検討（パソコンの使い方など）。 ・ 地域で保育園などに関わりをつくる。 ・ 地域で高齢者と若い世代両方に関係するテーマでの会を企画する。 ・ 地域のお宮掃除などに子供も参加し、高齢者との関わりを持つ。 ・ 各校区センターで行っているお祭りやチャレンジ教室などに協力依頼をする。 ・ 様々な世帯の交流作りの場を設ける。
	行政の取組み	・ 地域の活動を把握し、支援体制を整える。 ・ デイサービスなどの施設で子供と関わる企画をつくる。 ・ 保育園や小学校の授業の活用による交流（手紙、行事の招待など）。 ・ 小学生から高齢者へ手紙を書き直接持っていくことで他の活動へ参加しやすくする。 ・ 生涯学習課や地域包括支援センターとの共同企画の検討。 ・ 広報紙などの活動の強化。 ・ 高齢世代と若い世代の橋渡し。 ・ 保・幼・小・中学校の連携の強化。

課 題		気軽に集まれるような場が少ない。
改善 提案	個人の取組み	・ 楽しく過ごせる場所を地域に要望する、提案する。 ・ ボランティアとして協力する。 ・ 団体単位だけではなく少人数で校区センターを利用して他の人とのつながりを増やす。 ・ 気軽に集まる場を自ら見出す。誰かにしてもらう、行政にしてもらうではなく、自ら作る意識を持つ。 ・ 今どのような場があるのかを知る努力をする。 ・ ラジオ体操、ゴミ捨て、掃除など人が集まりやすい場に出向く。 ・ 近所で話をしながら自然と集まれる状況を作る（世間話の延長）。
	地域の取組み	・ 校区の施設を開放して、軽食等提供できるよう行政や関係者に検討してもらう。 ・ お寺を開放するよう働きかける（立正寺は実践し

		ている)。 ・ 校区センターを利用しやすいように工夫する。 ・ ミニデイや地域のイベントはこうしなければならないという固定観念をなくす。 ・ あえてインターネットを活用する。高齢者は使えないという気持ちを外してみる。 ・ 公民館を利用しやすい環境にする。 ・ サークル活動を増やすことで、誰でも参加しやすい場にする。 ・ 使える場所、使い方を分かりやすくする。
	行政の取組み	・ 校区センターを開放し軽食ができるようにする。 ・ ドリームセンターの開放、複合施設化。 ・ 現在活用されていない施設を有効に活用する。 ・ 大刀洗産地の野菜等の品を整える仕事など、みんなが集まりやすい場所を作る。 ・ 地域の意見を聞きながら公民館を利用しやすい環境にする。

(2) 行政、町民の意識

課題		介護に対しての実感がない、当事者意識の欠如。
改善提案	個人の取組み	・ 介護や人の手助けが必要な状態とはどんな状態かを知り考える。シミュレーションを行う。 ・ 介護を自分のこととして考えられるようにする。 ・ 10～20年後の自分の姿を想像できるようにする。 ・ まず勉強し知識を得る。その上で実際に介護施設に行くなどして実態を知り、今後の役割を考える。 ・ 行政だけに頼るのではなく、自分たちの事は自分たちです。 ・ 家族で一人ひとりの介護をどうするかを話し合うことで勉強の必要性や自分の役割を考える。 ・ まずは自分の健康に気を付ける。 ・ 個人がアンテナの感度を上げる。視野を広くする。
	地域の取組み	・ お互い声をかけあって、参加しやすい雰囲気をつくる。 ・ 介護が必要な家庭を把握し、手助けできる体制づ

		くりを行う（話し合う）。 ・ 花見や溝掃除等、地域行事の中で話し合う。 ・ 地域の中で情報共有と問題の抽出を行う。
	行政の取組み	・ 介護サービスの種類などをわかりやすく具体的に情報提供する。 ・ 参加して楽しくなる行事やメニューをつくる。 ・ 環境作り、情報提供、リーダーの育成。

課 題		町と町民の意識のギャップがある。
改善 提案	個人の取組み	・ 問題が起こっても行政の責任を問うだけでなく、自己反省する。 ・ 元気なうちから情報を取り入れる。 ・ 届いている情報に関心を持つ。
	地域の取組み	・ クチコミをたくさん行う（区長、民生委員、近所）。 ・ 行政と個人との橋渡しとなる行事を計画する。 ・ 一人一役、何かにかかわることを要請していく。 ・ 区長や民生委員が中心となって地域住民の情報を把握する。
	行政の取組み	・ 市民に対してわかりやすい説明を行う。 ・ 責任逃ればかりではなく前に進むことを考える。 ・ ギャップがあるという事実を認識する。 ・ 広報の機会を増やす。

（３）実態把握

課 題		高齢者や支援が必要な方の現状が把握できていない。
改善 提案	個人の取組み	・ 町が何をしているのか興味を持つ。介護に目を向ける。 ・ この協議会で得た知識を活かせるよう努力する。 ・ 知ろうとする意識をあげる（今回のような委員にならないとサービスの実態がわからない）。 ・ 近所や家族の実態を知る努力をする。 ・ 行政・地域・個人の壁をやぶり、どうしたら本当の現状がつかめるのかを考える。 ・ 必要な人がいると感じた時は町に電話をする。 ・ 地域のコミュニケーションを深める。

	地域の取組み	・ 高齢者に声をかける、気にかける。 ・ 盆踊りなどを実施して高齢者の現状把握をする。 ・ 町のまとめを参考にして話し合いをする。 ・ 民生委員との連携強化、民生委員による現状把握。 ・ 区長及び民生委員が他地区の視察をし、その後意見交換を行う。 ・ 訪問やミニデイ、行事などをしながら実態を正確に把握し行政へ報告する。 ・ 日頃からのコミュニケーションの深化を図る。 ・ 行政・地域・個人の壁をやぶり、どうしたら本当の現状がつかめるのかを考える。(再掲)
	行政の取組み	・ 地域の声に耳を傾け、行政区や校区センターと連携する。 ・ 町の現状及び詳細をよりわかりやすくする。 ・ 65歳以上を一律に毎年調査する。 ・ 行政・地域・個人の壁をやぶり、どうしたら本当の現状がつかめるのかを考える。(再掲) ・ 個人や地域の情報がスムーズに行政に入ってくるためのしくみづくり。 ・ 本人だけでなく家族にも聞き取り調査を行う。

(4) 個別メニュー（介護予防）

課 題		二次予防対象者の把握ができていない。
改善提案	個人の取組み	・ 各地区内などでコミュニケーションをとりやすい雰囲気をつくっていく。 ・ 現場に行って実態を知る。
	地域の取組み	・ 集落該当者の参加を進める。 ・ 区で介護見学などの計画をする。
	行政の取組み	・ チェックリストの送付者を全対象者にする。 ・ 地域サービスの中での抽出方法をつくる。 ・ できる限り全戸訪問による調査を行う（担当者や民生委員など）。 ・ 最も利用者の多いミニデイや健康診断の機会を活用して調査を行う。 ・ 家族や地域の方々に事業内容を知ってもらい、参加を促してもらう。

課 題		介護予防に関する意識が低い。
改善 提案	個人の取組み	・ 自分で出来る事は自分です。 ・ 日常的に運動する。 ・ 研修会に積極的に参加し意識を高める。 ・ 隣近所の人と会話をする。 ・ 家族全員で健康管理をする。
	地域の取組み	・ 地域でラジオ体操ができるような環境をつくる。 ・ 勉強会を実施する。
	行政の取組み	・ ホームページや広報などで介護予防の豆知識や、生活習慣の見直し啓発をするなど、より効果的な広報・啓発活動を行う。情報を発信し続ける。 ・ 地域の活動を支援する。専門的な知識も必要だが、自由で、おまけ感覚のものをつければ良い。

課 題		介護予防に対する取組みが少ない
改善 提案	個人の取組み	・ 自分自身で心身の健康維持管理に努める。
	地域の取組み	・ 健康管理を目的とした行事を行う。
	行政の取組み	・ 50 歳代から予防に対する取り組みを実施する。 ・ 若いうちから取り組める体操などの紹介。

(5) 個別メニュー（ミニデイ）

課 題		ミニデイの参加人数が少ない（参加者の固定化、行事が平日のみ）。
改善 提案	個人の取組み	・ ボランティアとして参加する。 ・ 近所への声掛け、コミュニケーションをとる。 ・ 自分の地域は何をしているのか知る努力をする。 ・ 話の中にミニデイの話題を少しでも出す。 ・ 男性が参加できるような雰囲気をつくり、声掛けを行う。 ・ まず見学する。母親へ参加を促す。母親へは友達を誘うよう声掛けする。
	地域の取組み	・ 民生委員、区長、老人クラブ、有志としてミニデイを運営する。 ・ アンケートをとって内容を改善していく。 ・ 回覧板でお知らせをする。

		・ 男性のコミュニケーションの場をつくる。 ・ 他の行事でカバーできるかどうかをしっかりと考え直す。 ・ ボランティア募集をする（今迄知らなかったが、自分も含め興味のある人や参加したい人はいる）。
	行政の取組み	・ 地域の実施状況を把握し、支援・広報・運営方法の変更を行う。 ・ 実施曜日の変更（平日夕方など）などによる活性化。 ・ 資金や人材を含めた支援。 ・ 子供達や若い方達を中心としたレクリエーションの発表の場として活用する。 ・ 各行政区の実施状況や実施日時を HP で報告する。 ・ ミニデイの内容をもっと充実させる。 ・ 子供（孫）と一緒に参加を促す。 ・ ポイントカードの発券など参加する楽しみを企画する。 ・ ボランティア募集をする（今迄知らなかったが、自分も含め興味のある人や参加したい人はいる）。（再掲）

課 題		ミニデイへ参加されているボランティアの方々への配慮、支援が足りない。
改善提案	個人の取組み	・ 地域を縁の下で支えてくれている事を住民がしっかり知り、人任せにすることなく、感謝・労いの気持ちを持ち、自らも地域に溶け込む努力をする。
	地域の取組み	・ 関わらないと知り得ない現状を、行政へ訴える努力をする（広報やちょぼら取材依頼など）。
	行政の取組み	・ 何でもかんでも無償ボランティアにするのではなく、ボランティアを維持できる体制づくりを支援する。

（６）現在のメニュー全般

課 題		全体的に利用率が低い。
改善提案	個人の取組み	・ コミュニケーションをもっと積極的にとる。 ・ まず自分のことは自分でする、一人でも多くの友をもつ。

		・自分の得意分野で高齢者と一緒に活動できないか考える。 ・利用率が上がる行事を地域へ提案し、参加する。
	地域の取組み	・行政に頼らずに自分たちで皆が参加しやすいイベントを考える。 ・メニューを見直す。 ・特にこれ以上ない。
	行政の取組み	・ミニデイ以外の活動を増やす。 ・HPで活動内容、参加者の声、感想を紹介。 ・ミニデイだけで十分。内容の充実を図る（色々企画しても参加者が少ないと意味が無い）。 ・特にこれ以上ない。

課 題		今後、要支援 1,2 の人への対策が必要になる。
改善 提案	個人の取組み	・自分でできることは自分です。 ・ボランティアでの参加。 ・そもそも要支援であって、要介護状態ではない事に意識を変える。 ・家に引きこもらず、外に出る習慣を作る。楽しみ、趣味を見つける。
	地域の取組み	・ミニデイの維持。 ・個人支援のしくみづくりを行う。
	行政の取組み	・税金でする事としない事の区分けをする。 ・ホームヘルパーの拡充とボランティアの増員。 ・受益者負担の考え方をより厳密に。 ・縦割りを破って地域、個人支援のしくみづくりを行う。 ・自立支援が出来る様な豆知識などを広報などに載せ、読む楽しみを作る。

（７）個別メニュー（健康教室）

課 題		健康教室の内容や名称が良くない。
改善 提案	個人の取組み	・自分はまだ大丈夫という考えを変えて、一步踏み出してみる。積極的に参加してみる。 ・自宅でのラジオ体操や、無理のない運動をする。
	地域の取組み	・地域で運動、体操のリーダーを育成する。

		・ 地域主催で近くの公民館で行う。 ・ 高齢者のトレーナーを中心としたサークルをつくる。 ・ ミニデイのメニューの中に組み入れてみる。 ・ 参加者の声を広げる。 ・ 地域の公民館を活用する。
	行政の取組み	・ 名前、活動内容をもう一度見直す。 ・ リーダーを育成するための教育を行う。 ・ 活動の PR。 ・ 地域で展開できる高齢者のトレーナーを育てる。 ・ 活動の PDCA をきっちり回す ・ 地域での生きがい作りの場が実施しやすいような場の設置。

(8) 個別メニュー（紙おむつ・配食サービス）

課 題		紙おむつの回収指定業者が町内にはない。未開封の紙おむつの回収システムがない。
改善提案	個人の取組み	
	地域の取組み	・ 行政区や隣組単位での配布を検討する。 ・ 区長のところに一時集めて町が回収。
	行政の取組み	・ 指定業者に町内の事業者も入れる。 ・ 未開封おむつの回収ルール、窓口を作る。

課 題		配食サービスが不十分。
改善提案	個人の取組み	
	地域の取組み	・ 民生委員、区長を通じて地元の利用者の健康状況を把握する。 ・ 宅配サービス利用の呼びかけ。
	行政の取組み	・ 食事の質をより高めるため、配食業者の見直しを含め、何社か検討する。 ・ 一人暮らしの高齢者は誰でもサービスを受けられるようにする。 ・ 個人負担の見直し。 ・ 見守りの内容や質について、アンケートなどの調査が必要。

(9) 移動手段

課 題		交通が不便で高齢者の移動手段が少ない。
改善 提案	個人の取組み	・声をかけ、便乗を進める。 ・コミュニティバスを走らせるよう署名する（ただし、バスの利用は自己負担）。 ・休みの日に母親と一緒に買い物に行く。 ・買い物はネットの活用をできるようにする。 ・元気なうちは徒歩を心がける。 ・協力できることを探す。
	地域の取組み	・可能な範囲で、地域での高齢者送迎を行う。 ・送迎ボランティアを募る。 ・校区ごとに検討する。 ・コミュニティバス以外の方法の検討。移送サービスの充実。
	行政の取組み	・コミュニティバスの運行（複数の自治体との広域組合も検討）。ただし、本当に必要な路線やコスト面をしっかりと考える。 ・割安チケット販売の検討。タクシーチケットの導入（自己負担）。

(10) 広報・周知

課 題		支援に参加したいが仕方がわからない方がいる。 活動が知られていない。
改善 提案	個人の取組み	・自分からできることを探す。 ・まず自分の地区の行事に参加し、次に若年世代が活動する場を設けていく。 ・ホームページや広報をチェックする。 ・友達を多く作る。
	地域の取組み	・地区みんなが参加しやすいイベントを教える。 ・若い人に役員をお願いしていく。 ・回覧板等でお知らせ。口コミ。
	行政の取組み	・PRをもっと行う。

(1 1) 連携のあり方

課 題		地域と行政、地域内（民生委員や社協など）の連携がうまくいっていない。
改善 提案	個人の取組み	・ 自分の親（65 歳以上）の把握から行う。自分も行政の活動の把握を行い、必要に応じて参加を促す。
	地域の取組み	・ 行政に遠慮することなく実態を訴える。 ・ 買い物バスの設置。全ての校区でアンケートが実施され大刀洗校区は検討している。
	行政の取組み	・ ボランティアと福祉協議会と行政の横のつながりを密にする。 ・ 現状把握を行うため、地域とのコミュニケーションを活発にとる。 ・ 縦割りをなくす方法及び個人・地域と連携がとれる体制づくりを行う。

課 題		地域における役員の人材不足。
改善 提案	個人の取組み	・ 地域取り組みを他人任せにしないで、自分のこととしてとらえる。
	地域の取組み	・ 役員を割り当てではない仕組みづくりを行う。
	行政の取組み	・ 役員の勉強会、横のつながりのとれる集まりを実施する。

(1 2) 介護保険制度

課 題		介護保険や地域包括ケアのしくみが難しい。
改善 提案	個人の取組み	・ これからの自分の事として勉強し情報を得る。 ・ 個人ではわからないので教えてもらいたい。 ・ 役場に相談する。
	地域の取組み	・ 地域で勉強会などを実施する。
	行政の取組み	・ 住民が情報を得やすいシステムを作る。 ・ 住民でも理解できるような資料を作り周知する。

(1 3) 高齢者、認知症への理解

課 題		高齢者への理解が不足している。
改善	個人の取組み	・ 高齢者の現状を知る。

提案	地域の取組み	・ 成人式など若い人達が集まる場で高齢者の現状を知らせる。
	行政の取組み	・ 若い世代に目を向けてもらえる努力をする。

課 題		認知症への理解がまだ薄い。
改善提案	個人の取組み	・ 隣近所の人と話をし、自宅に閉じこもらない。 ・ 自分の事として知識をつける。 ・ 町主催のイベントに関心を持ち、参加してみる。
	地域の取組み	・ レクリエーションなどの開催によって一人暮らしの高齢者の近況を把握する。 ・ 勉強会、情報交換会の実施。 ・ 住民への参加を促す。 ・ 認知症テストを配布する。
	行政の取組み	・ 現状のミニデイは高齢者と子供のふれあいが作られており、両者楽しんで行事ができている。大変良い交流。 ・ 広報で、理解してもらう為のコーナーをつくる。

(14) その他

課 題		子どもの頃、若い頃からの体力づくり、生活習慣予防の視点が不足。
改善提案	個人の取組み	・ スポーツと体力は違うことを意識し、日常生活動作を繰り返し、スムーズにできるようにする。 ・ 若いときから体操などを行い体力をつける。
	地域の取組み	・ 子供、大人、高齢者、みんなが参加できる基礎体力づくりの場をつくる。 ・ 集落の若い人、老人を含めたところで健康体操を実施する。
	行政の取組み	・ 若い時から運動能力を上げる予防（生活習慣）を推進する。

(15) 自由記載概要

- ・ リーダー核づくり、保・幼・小・中学校の連携、NPO の組織化が必要
⇒ 組織的計画的取組（PDCA サイクルの活用）

- ・ 福祉月間の設置（町をあげての広報・啓発の徹底、きっかけづくり）
- ・ 大牟田市「はやめ南人情ネットワーク」の取組を参考にしてみよう。
- ・ 大刀洗の特産品を色々な所で販売して、広報活動をしてみる。
- ・ 自然と人が集まるような場づくりを作ってみる。
- ・ 少ない、足りない、不十分という項目が多い。自分がどうあればよいのか、よく考える必要があると思う。少ないと思えば、自分でつくればいい。十分にメニューは用意されていると思う。
- ・ 要支援 1, 2 の人に対しては、介護がどうしてもいるのならば、実費負担、もしくは、半額援助ぐらいでやってはどうか。すでにある介護予防活動に積極的に出てきてもらうことに尽きる。その手立てとして、おみやげ（農家や食品屋さんから出る規格外品）を時々用意するとか、あるいは、プロに丸投げの費用を見直し、たとえばキムラヤの焼きたての「あつあつあんぱん」を配布する事にお金をシフトするなどしてもおもしろいと思う。
- ・ 全体を通して、個人の意識や積極的に情報を取得することも必要だが、行政も町民に対して、分かりやすい説明や、案内等を発信することも必要。
- ・ 家の荒廃している地域があり、どうにかすべきだと思う。ここに住む人をミニディなどに連れ出すのは、非現実的に見えるので、個別に支援する必要がある。
- ・ 議論していて介護だけが介護ではないと感じた。
- ・ 医療機関（かかりつけの医者）とつながっていない方が多いことに驚いた。
- ・ 障害認定を受けて 1 年半になる。かろうじて車の運転はできるが、1 年位経つころに、障害者駐車場に健常者の方が車を止めることの多さにびっくりした。止める人には体の悪い人のことなど関係ない。大刀洗町の D&D にもドラモリにもよく止まっている。止める人には、全く関係ない『自分でなかったら、それでいい』。そういう考えだと思う。障害者駐車場は体の悪い人に利用してもらう。障害者駐車場に健常者の方が止めない方法を考える。
- ・ 生涯で考えると子供の頃から基礎体力作りは大切だと思う。子供達が遊べる遊具が減ると、危険と言って、色々な制限がかかっていることも要因ではないか。
- ・ 介護予防、健康志向という言葉が先行すると、重たかったり、引いてしまう感じがする。実施側も受ける側も、モチベーションが高まるテーマ、活動作りを創造していくことが大切だと感じる。
- ・ 高齢者と若い人が交流する場を作ると、どうしても年が上の分、上から目線の言い方が多くなると思う。そうになると、若い人は自分から行かない（嫌な思いをしてまで交流する必要がない）。「頼る、支える」の関係ではなく、対等な立場でないと長くつづかないと考える。

- ・ 巡回バス、コミュニティバスは利用者が少ないと思うので、あまり意味がないと思う。コミュニティバスの中には空のままのバスが走っていることも多いとの話。
- ・ ミニデイに参加できる人は元気な人、来られない人の把握が必要なのは。民生委員などが声を掛け、会話をし、困っている事ややって欲しいことはないかなど、身近なことが言い合える関係になると介護予防になるのではないか。
- ・ 堀内先生が行われている健康体操は大変人気があり頑張っているので、活動の場の提供など町からの支援を検討してほしい。
- ・ 行政の取組みとして、税金の有効利用として、独居世帯に対する支援等を重視して欲しい。
- ・ 学校行事の交流の場をより有効的にする。PTA や育成会との連携を強化する。
- ・ 各区長を通じて隣組長にお願いし、行事等を行なってもらうよう要望する。
- ・ 今回のテーマは、突き詰めていくと、個人の自覚と縦・横の連携の必要性を実感した。どちらも一足飛びに進むものではないので、地域の役員をいかに充実させられるかが重要だと思う。
- ・ 健康体操教室について、大刀洗町の中でも各校区、各行政区一律での事業企画は困難になっているのでは？ 今回たくさんの方とお話を伺いながら感じたことは、各校区センターや各行政区間でも状況は異なっていること。特に大刀洗校区では、交通の便も悪く、高齢者の比率は高い方だと思う。独居家庭や高齢夫婦家庭も増加している。校区センターでの健康体操には、校区センターの近隣にお住まいの方や車の運転が可能な方が参加しているため、今回のテーマでは、参加者が少ないのは仕方がない。高齢者に寄り添い、各行政区で行っている健康づくり活動を生かして行く方法はないだろうか。
- ・ 行政主催の事業にボランティア参加者が少ないと感じるのは官の都合で、住民の身近でも支えてくださる隣近所の有志ボランティアさんは、沢山いると気付いた。声掛けも見守り。国保や介護予防に十分貢献してくれていると感じる。充て職の方々に集中して仕事を振る方法ではなく、住民全体で協力できる方法で地域支援を検討して欲しい。
- ・ 今回までミニデイを知らなかった。今回協議会に参加して知った、知らない人はたくさんいると思うが、ボランティア出来る人はいると思う。)
- ・ 高齢者＋若者(無料)のシェアハウス
- ・ 自主性がなければ続かない ⇒ 自然と人が集まる事が出来ればいい。
- ・ 多人数でなく、少人数の活動の方があつまりやすい人もいるのでは？
- ・ 地域活動・サークル活動一覧を作り、活動への興味をもたせる。

- ・ 大刀洗町は農業が盛んなので、勉強会ではなく、気軽に話が出来るといいのでは？

4. 最後に

「地域包括ケア」という言葉だけを聞いても行政の難しい言葉としか感じられなかったが、この協議会で議論することによって、私たちに密接に関係していることがよくわかった。

この協議会の特徴は、必ずしも委員全員で一つの答えを導き出すというものではない。協議会での議論を通して、委員一人ひとり、また職員が多様な意見があることを感じるプロセスこそが重要だと感じる。

この協議会を通じて、町と住民が形式ではなく実質的に一体化できることを目指していきたい。

○第1回会議 平成26年7月12日

諮問内容「地域包括ケアシステム」に関する説明（健康福祉課福祉係）。各分科会にて協議し、内容について共通理解を図る。

○第2回会議 平成26年8月10日

コーディネーターからの論点提示を基に協議・意見交換を行い、「改善提案シート」を記入。

○第3回会議 平成26年9月13日

「改善提案シート」の取りまとめ結果について協議後、「意見提出シート」を記入。

大刀洗町住民協議会

第1分科会

分 会 長 弥永 康寛
副分会長 渡邊 裕子
委 員 平田 道朗
委 員 石井 喜代子
委 員 佐田 壽男
委 員 古賀 龍二
委 員 永利 直美
委 員 白石 博美
委 員 古賀 京子
委 員 野村 大成
委 員 松永 智之
委 員 江藤 千恵
委 員 田中 裕子
委 員 宮崎 善央
委 員 深堀 頼子
委 員 長野 俊一

第2分科会

分 会 長 飯田 浩一
副分会長 中村 祥子
委 員 重松 新一
委 員 岡本 ゆり子
委 員 中垣 幸男
委 員 實藤 量徳
委 員 長淵 義彦
委 員 堤 敦子
委 員 久永 由己枝
委 員 平尾 修二
委 員 中山 公次
委 員 野村 さち子
委 員 中尾 成希
委 員 長野 清一郎
委 員 平田 竜一郎

第3分科会

分 会 長 井上 幸継
副分会長 古賀 そのみ
委 員 鶴野 宏之
委 員 安丸 善子
委 員 平田 俊一
委 員 池崎 美喜男
委 員 森田 和佐
委 員 組坂 敏和
委 員 栗山 豊
委 員 池田 かおり
委 員 野村 辰也
委 員 宮崎 愛子
委 員 畠山 将幸
委 員 中垣 小夜子
委 員 人見 利雄

構想日本

- ・伊 藤 伸（構想日本 総括ディレクター）
- ・熊 谷 哲（政策シンクタンク PHP 総研 主席研究員）
- ・海 東 英 和（NPO 法人 未利用資源事業化研究会理事）
- ・小瀬村 寿美子（神奈川県厚木市 総務部行政改革担当次長）
- ・山 根 晃（東京都足立区 福祉部北部福祉課長）
- ・田 中 俊（構想日本 政策スタッフ）